

VI 活動事例紹介

事例 1 オンライン化の推進 【萌えぎ野自治会】

新型コロナウイルス感染防止対策
会員の負担軽減

コロナ禍になり密を避けることが求められ、多くの自治会が役員会等の会議を縮小・中止しなければならぬ状況となりました。その中、萌えぎ野自治会では、自治会館にオンライン会議システムを導入し、密を避け安心して会議が開催できるようにするなど、多様なことに取り組んでいるので、詳しい取り組み事例について紹介します。

～ 自治会館のネット環境の整備 ～

自治会館にノート PC、光回線&Wi-Fi（ネットワークに繋ぐため）、WEB カメラ（自治会館内の様子を映すため）、プロジェクター（PC の画面を大きく投影するため）を導入・設置し、WEB 会議システム（Skype）を利用して役員会をオンライン化しています。

スマートフォンや PC を使用できる人は自宅など自治会館以外の場所から役員会に参加し、ネットワーク機器を使用できない人は自治会館に集まり参加しています。そのため、自治会館に PC や WEB 会議システムの操作ができる人が必ず 1 人は必要です。



導入した結果、以前は自治会館に 20 人ほど集まって役員会をしていましたが、導入後は自治会館には 5～7 人でそれ以外の人は自宅などから参加できるようになりました。密を避けられるだけでなく、スマートフォンや PC があればどこからでも参加できるため、会議参加者の負担軽減にも繋がります。

また、役員会はリモートでの参加を強制するのではなく、自治会館に来て参加するか、リモートで参加するかを選択できるようにしたので、ネットワーク環境が利用できない役員に対しても柔軟に対応することができます。

このように、オンラインシステムの導入には多少の経費がかかったり、サポート体制を整える必要がありますが、コロナ禍においても自治会活動を停滞させることなく、また参加者の負担軽減にもなるため、仕事をしている方、子育てや介護をされている方も自治会活動に参加しやすくなるなどのメリットがあります。



↑ 萌えぎ野自治会館のオンライン会議で実際に使用している WEB カメラ、ノート PC、プロジェクター。このような機器は、以前よりも安価で入手することができるようになったため、手軽にオンライン化を進めることができる。

～メールアドレスを用いたデータのやりとり～

萌えぎ野自治会では、オンラインミーティングを開始するにあたって、メールアドレスのない役員にはメールアドレスの作成を要請しました。各役員のアドレスは、役員名簿と一括で管理しています。

これによって、役員会の資料を事前に各役員へ送付できるようになりました。以前は、役員会の際に紙で資料を配布していたため、十分に資料を確認する時間が取れないまま会議が進んでいた部分がありましたが、事前に資料を確認したうえで会議に臨むことができるため、活発に意見交換できます。また、オンラインミーティング上で資料を画面共有することで、相互理解をより深めることができます。

同様に、議事録についても各役員へメールで送付しています。

～役員へのサポート体制の強化～



オンライン化にあたり事前に執行部側から各役員に何をどうするのかを周知、説明すること、また、使い方が分からない役員に対しても、サポート体制をしっかりと整えることで役員からの反対意見はありませんでした。

70代の役員も問題なくスムーズにオンラインミーティングに参加していて、年齢が障壁にはなっていません。

役員会以外にもスムーズな連携を進めるため、以下の取り組みを実施、または予定しています

- ・ LINE で役員グループを作成し日常的な連絡はそちらを活用する。
→集まらなくても一人の発言を役員全員で共有することができます。
- ・ 自治会の公式 LINE アカウントを作成し、全会員を対象に友達登録をしてもらい、自治会全体に速やかに周知したいお知らせ等（排雪やごみ回収の日程変更など）を発信する。（令和4年度実施予定）
→役員は知らせたい情報を瞬時に友達登録をした全会員に周知することができ、会員は自らホームページ等にアクセスしなくても必要な情報をただちに入手できます。

～他団体と協力して行う自治会活動～

コロナ以前には、夏祭りで自治会以外の団体にも協力を仰いでいました。

例えば、自治会のなかの大学生とのつながりを活かして、大学生たちに協力を呼びかけ、ボランティアとして参加、実行委員会のメンバーとして夏祭りのゲーム運営等に携わってもらいました。大学生がゲームなどの運営をすることで、子どもたちに夏祭りをより楽しんでもらうことができました。

また、高齢者クラブの昂会には、夏祭りの大人盆踊りで最初に踊っていただいていたいました。そうすることで大人の盆踊りも賑わいが出るようになりました。

新型コロナウイルスが拡大してからは夏祭りを実施できずにいましたが、代替イベントとしてYouTube Live を利用して大抽選会を実施しました。コロナ禍においても自治会員のつながりは非常に重要であると考えているので、感染状況を鑑みながら交流事業を続けていく予定です。


事例 2 対応スクリプト作成・負担軽減 【萌えぎ野西自治会】

～自治会⇔自治会員対応スクリプトの作成～

萌えぎ野西自治会では、「自治会⇔自治会員対応スクリプト」を作成し、自治会区域内の全会員、また未加入者にも配布しています。内容は、ごみステーションや自治会排雪についてなど、自治会加入の際などに自治会員から多く寄せられる質問について取り上げています。


自治会⇔自治会員対応スクリプト


令和3年4月作成 萌えぎ野西自治会



Q. ゴミステーションはどのように決まるのですか。誰がどこを使うのか決まっているのですか。場所は変えられますか？


A. 萌えぎ野地区の開発・分譲を行っていた東江別土地区画整理組合（H20年3月7日解散）が区画整理の時点で位置を決めており、分譲区画ごとに利用位置を定めたものが前提となっています（区割りマップ参照）。場所は変えられますが利用するグループの方々の了解のもと決めていただきます。ただし、道路のカーブ地点や消防設備設置場所、公園などはもちろん×。回収トラックの順路から了解が出ない場所もあります。また、新設、移動の際には必ず連絡をください（市への届出が必要）。





Q. ゴミネットは誰が準備するのですか。自治会では配布しないのですか。

A. 新設の場所には最初に自治会から配布することになっています。が、現在はすでに全ステーションを利用しています。ネットの使い方の違いにもよりますし、ゴミステーションは自治会加入者、未加入者が混在しての利用となりますので不公平感をなくすため2回目以降の配布はしておりません。使用するグループの皆さんの維持管理となります。また、アパートタイプなど管理業者が設置した収納庫を利用する箇所もありますのでご理解ください。



<スクリプトを取り入れる以前>

住民が地域のことで疑問に思ったことなどは、自治会の役員へ連絡します。そのため、問い合わせが役員へ集中していました。

お問い合わせの内容も、自治会について理解がない場合が多く、その場合は「自治会とはどういった組織なのか、何をしているのか」というところまで遡って伝えなければいけません。似たような内容についての質問が何度もあるので役員の負担が増えてしまうことが問題でした。

また、各役員での認識や対応が明確に統一されていなかったため、過度に介入し、自治会側の負担が増えてしまったこともありました

<スクリプトを取り入れてから>

スクリプトを役員、自治会員だけでなく、自治会未加入者にも配布することで、「自治会の役割」「自治会で出来ること、出来ないこと」を手間をかけずにはっきりと伝えることができます。また、質問が出た時には役員だけでなく、区長や班長でも対応することができ、誰が答えても同じ内容で対応することが出来るようになりました。

これにより、問い合わせの件数も減少し、役員の負担を軽減することができました。スクリプトは、カラー印刷にしたり、硬い文章ではなくより砕けた文章にすることで多くの住民に読んでいただけるように工夫して作成しています。導入してまだ間もないのですが、その時々に応じてよく聞かれる質問は変わってくるので、役員会や、お問い合わせ内容であった意見を参考に、その都度内容を改訂していく予定です。

～役員の負担軽減や、未加入者への働きかけについて～

役員の負担軽減について、多くの人に仕事をお願いすることで、役員の負担は減り、ハードルも下がっていきます。また、役員という肩書きを重荷に感じている会員も多いので、得意な分野でお手伝いをしていただくという考え方で意見を募集して自治会の運営や活動に協力していただける方を探しています。

アパート居住者などは、滞在期間が短いなどといった理由で自治会への加入率が低くなりがちですが、直接訪問して加入への呼びかけを行うことにしています。何かあったときに一度直接会っていることでコミュニケーションがとりやすくなります。

事例 3 自治会活動 PR 【上江別第一自治会】

加入促進事例

役員等の負担軽減

上江別第一自治会では、自治会活動として花壇整備活動や、町内の清掃活動などを実施しています。自治会員のみに活動の周知をするのではなく、会員以外の住民にも周知し広く参加を促しています。

活動時には会員以外の方も数名参加しており、コミュニケーションを取りながら共に活動することで、その後の加入促進に繋がっています。



↑上江別第一自治会の運動会の様子（コロナウイルス感染拡大前に実施）。

大人だけではなく、子ども同士、そして世代を超えたコミュニケーションをとることで、どの年代にとっても住みよいまちに近づくことができる。

事例 4 現役世代が運営できる自治会活動【新栄台西自治会】

役員等の負担軽減

役員の担い手不足解消

新型コロナウイルス感染防止対策

～自治会運営の中心を若い世代へ～

新栄台西自治会では「仕事をしている現役世代が運営できる自治会活動」を目指し、令和4年度から運営方法を大きく変更することを試んでいます。

<変更点>

①役員、区長間の電話や Fax での連絡を、ラインワークス^{※1}でのやり取りへ移行する。

- ・電話での連絡を移行することで、日中仕事をしていても時間を取られることがない。
- ・連絡内容がデータとして残るので、後からでも見返せる。
- ・送った連絡を誰が「既読」していて、誰がしていないかが一目で分かる。

②自治会費の集金業務を会費ペイ^{※2}を使い実施する。

- ・班長、区長が会費を集金する必要がなくなる。
- ・メルマガ機能もついており、お知らせなどタイムリーな情報を発信できる。

③キントーン^{※3}を利用し会員のみが見ることができるスペース（場）を作成する。

- ・インターネット上で、会員へのお知らせなどを掲載・周知でき、災害時は安否確認として利用できる。
- ・イベントへの参加など各種申請ごとがあるときは、インターネット上で申請申込できる。

など、役員等の負担を軽減し仕事をしている人でも無理なく自治会運営に携われるように体制の変更に向けて動いています。当然ネット利用環境がない会員もいるため、全てをネットだけで完結させるのではなく、ネット利用ができない会員にも不便がないように調整しています。

また、役員の担い手は学校で PTA として活動されていた方などに「お子さんと一緒に楽しみませんか」と声をかけ、人材の発掘をしています。

そのほかにも、コロナ禍で密を避けるためにライン（LINE）のビデオ通話機能を利用し会議のオンライン化をするなど、積極的に新しい技術を取り入れ業務効率の改善、負担の軽減に取り組んでいます。

※1：ラインワークス（LINE WORKS）とは企業向けのクラウド型ビジネスチャットツールです。

トークアプリの LINE と同じ感覚で使用でき、そのほか個人や組織での予定管理やファイルの共有などを行うことができます。通信内容が暗号化されるなど、セキュリティ面においても国際認証を取得しています。

↓詳しくは HP をご確認ください↓

URL：<https://line.worksmobile.com/jp/>



※2：会費ペイとはサービス運営者向けの入会申込・会員管理・請求管理・決済システムです。会費の支払いをインターネット上で行うことやコンビニなどで振込することができます。

↓詳しくは HP をご確認ください↓

URL：<https://kaihipay.jp/>



※3：キントーン（kintone）とはあらゆる情報の管理、リアルタイムでの共有などができるクラウドサービスです。

↓詳しくは HP をご確認ください↓

URL：<https://kintone.cybozu.co.jp/>



～SNSの活用～

ウィズランド大麻北町自治会では、SNS上でのビデオ通話機能や、オープンチャット機能を利用して会議や連絡、引継ぎを行っています。

その結果、集まらずして会議が可能になったり、会議をチャットでのやり取りに置き換えることで、気軽に連絡が取れるようになっています。

また、拘束される時間が減るので、現役世代で働きながらでも自治会の運営が実現できています。

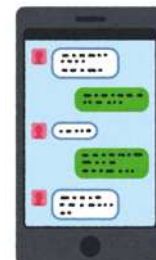
オープンチャットの利点としては以下のことが挙げられます

例えば…

LINEのオープンチャット機能※1を利用することで、個人情報を知られることなく、時間や手間をかけずに自治会のやり取りが可能になります。

個人情報が流出する可能性が少ない

- ・LINEで登録している通常のプロフィールと異なるプロフィールで参加可能である。
- ・友達登録をしていなくてもチャットに参加することができる。
- ・管理者が閲覧できる人を制限することができる。
- ・新しくチャットに参加しても、過去のやり取りも遡って閲覧できる。
→新しい役員は過去の業務内容や流れを知ることができるので、役員業務の引継ぎ時の負担軽減につながっている。
また、毎月の回覧も自連協HPからのデータをチャット上で発信することで手間を減らすことができます。



※1：LINEオープンチャット機能とはLINEのサービスのひとつです。

複数人の利用者がリアルタイムにメッセージを送信するチャットというシステムを利用しています。チャットは、誰かがメッセージを入力すると、即座にすべての参加者に送信されるため、数人で会話をするように使うことができます。

↓詳しくはHPをご確認ください。↓

URL：<https://guide.line.me/ja/services/openchat.html>